



第 20 号
平成 28 年 3 月

沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より グローバル人材育成教育について.....	2	10. 地域連携事業	17
2. 卒業生へ贈る言葉	3	11. 学生会より	18
3. 卒業にあたって	4~5	12. 寮生会より	18
4. 学年の学生の様子	6~7	13. 後援会会長挨拶	19
5. インターンシップ体験記	8~9	14. 保健室より	19
6. 就職・進学状況	10~11	15. 平成 28 年度学生募集結果一覧	19
7. 修了生へ贈る言葉	11	16. 平成 28 年度 (前期) 行事予定表	20
7. 修了にあたって	12		
8. 第 10 回高専祭	13		
9. 学生の活躍	13~17		

独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905 番地
TEL:0980-55-4003 FAX:0980-55-4012
HP:<http://www.okinawa-ct.ac.jp>



グローバル人材育成教育について

校長 安藤 安則

校長の安藤です。地域住民の皆さんをはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協力会の皆様方には、平素沖縄高専の教育・研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝致します。

昨年平成 27 年 4 月に校長に就任した際、三つの重点施策（グローバルスタンダード教育・研究の推進、卒業・修了時の出口管理の充実、危機管理対応能力の強化）を掲げ、教職員と共に教育・研究と地域社会との連携に努めてまいりました。今日はグローバルスタンダード教育の方針を説明致します。

グローバル人材と巷間良く言われますが、文部科学省や関係機関のグローバル人材に関する定義をまとめますと以下のように凡そ書けると思います。

1. 少なくとも英語の 4 つの語学スキル（読む・聞く・書く・話す）を持ち、異なる国々の人達と十分コミュニケーションを取れる人。
2. 違う国々の文化を理解し日本文化にも造詣が深く、日本人としての Identity を持つ人。
3. 自分の専門性を確立し、自分のアイデアを発信でき、仕事の完遂能力を有する人。
4. 異なる国々の人々と協調して仕事を企画・実施し所期の目的を達成できる人。
5. 世界の動向に目配りし、地域社会に貢献できる人。

若い人たちの中でこの五つの項目の全部を実行できる人は限られ、ある意味で「若いスーパーマン」を求めているのかも知れません。現行のグローバル人材育成教育をみますと、ややもすれば上記の項目 1 や 2 が優先され、異なる国々の人々と流ちょうに英語で話せる人材育成が先ず重視されているように見受けられます。

私の企業（㈱ IHI）や島根大学での約 40 年間のビジネス・教育研究における国際的な事業に係る経験を振り返りますと、上記の項目の 3 と 4 が実務的にはまず重要と考えます。国際会議や実際のプロジェクト会議では、流ちょうに英語で話せればそれに越したことはありませんが、一番重要なのは専門性に裏打ちされた革新的な企画や提案等を訥々とした英語でも発表・議論でき、説得できるかです。本当に重要な発表・提案であれば、会場は水を打ったように静かに聞いて貰えます。

沖縄高専は、このような観点から、先ず学生其々が先端的専門性を鍛錬・習得し、かつ英語の 4 つの語学スキルによるコミュニケーション能力を身につけ、実社会において国際的な活躍ができるように、グローバル人材育成教育を推進しております。

現在、沖縄高専は機械システム、情報通信システム、メディア情報、生物資源の 4 つ工学科を持ち、平成 27 年度には新たに航空技術者プログラム、情報セキュリティプログラム、再生医療プロジェクト等を立ち上げ、沖縄県や関係企業と連携し、地域社会への貢献を図っております。

今後とも関係各位に沖縄高専の教育・研究にご理解頂き、更なるご協力・ご支援を賜るようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。



機械システム工学科

5 学年学科担任
眞喜志 隆

5 年生の皆さん、卒業おめでとうございます。これまで皆さんが3年生と4年生では副担任として、また5年生では下嶋先生のピンチヒッターで、今年一年間を担任として過ごさせてもらいました。5年生の担任の経験がなく、日々の出席や修学状況の確認だけではなく、主に皆さんの進路関係についていろいろ経験でき、興味深く担任の仕事ができたかと思えます。ありがとうございました。

機械システム工学科で学ぶ分野は多岐に亘っており、卒業までにたくさん勉強したかと思えます。本校で学んだことを忘れずに、これからそれぞれの進路に向かって進んで行ってください。本校で過ごした5年間は、人間の成長する過程の中で大切な期間にあたります。ここでの勉強や経験したこと、知り合った友人は、一生の宝物になるかもしれません。大切にしてください。

卒業は終わりではなく、新たな始まりです。社会に出る人は、学校生活とは違った厳しさがあると思います。進学する人は、より難しい学問的な課題を深めていく必要があります。楽しく前に進んで行くように心がけてください。これは私の考え方ですが、きちんと仕事をこなしていけば、それから先は何とかなりますし、なるような気がします。何年か経って、振り返った時に後悔はしないように、日々をきちんと過ごしていくように進んでください。また、時間があれば、本校にも訪ねてきてください。最後になりますが、社会に貢献できる技術者となることを目標として、これからの人生を楽しんでください。卒業、おめでとうございます。



情報通信システム工学科

5 学年学科担任
兼城 千波

5 年情報通信システム工学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学してから5年間、担任として見守ってきた皆さんが、無事に新しい未来へ羽ばたいていく姿を感慨深く思います。5年前に入学してきた皆さんに、私は「沖縄高専にいる5年で、どんなことにも対応できる“tough”な人に育てる！」と宣言しました。いろんな場面で貴方たちを叱咤激励し、それに耐え、改善し、対応してきた皆さんは、入学した時よりもいっしょなところ“tough”になっていると思います。クラスの半分近い学生の欠課時間が多く、「無事に進級できるのか?」「卒業できるのか?」というハラハラ感からは、とうとう5年間解放してもらえませんでした。でも、今ここで卒業の日を迎えられたことは、やっとその重責から解放してもらえます。その代わり、4月からは自らの行動に対して、自分自身で責任を担うことを自覚してください。

一見バラバラに見えるクラスでしたが、体育祭や高専祭ではクラスの“まとまり”を十分発揮してくれました。体育祭では3・4年と2年連続学年優勝し、高専祭では、4・5年で、2年連続総合優勝しました。特に、高専祭に懸ける“意気込み”には敬服するものがありました。3年のときは、「やる人がやって」という雰囲気から、4年のときは、「やっていない人にも声をかけて一緒にやる」に変わり、5年生では「自分がクラスに貢献できることを考えて行動する」に変わっていました。放課後、準備している皆さんの姿をみていると、「成長したな」と感じた時間でした。

5年間、ずっと皆さんに話してきましたが、一人ひとり性格も才能も異なります。皆さんに平等に与えられているのは「1日24時間」という時間だけです。この24時間をどんなふうにか使うのかで、将来の“happy”感が変わってきます。才能を開花させることも、センスを磨くことも、その「24時間の使い方」で変わってきます。才能を開花させれば「自分の居る場所」が見えてきます。センスを磨けば、楽しんで行動することができそうです。

これから歩いていく人生の中で、いろんな人と出会い、いろんなことを学び、経験していくでしょう。これらがすぐに結果となって現れる訳ではないと思います。それでも、何年後かに笑顔で仲間と会えるように、培ってきた経験を生かし、“tough”に活躍できる人材に成長することを期待しています。最後にこの言葉を贈ります。“The reward of suffering is experience. Knowledge is power.”



メディア情報工学科

5 学年学科担任
太田 佐栄子

卒業生みなさん、ご卒業おめでとうございます。本校に入学してからひとつひとつの授業科目を合格するために様々な努力をしたと思います。また、思うような成績が残せず悔しい思いをしたかもしれませんね。教育課程のすべてを終え卒業するみなさんに心からおめでとうをおくります。そして、学生会や寮生会、高専祭実行委員など、学生全員が快適で楽しい学校生活を送るために頑張ったみなさん、ありがとうございます。

メディア情報工学科5年のクラスは全員でフォローし合える雰囲気を持っていました。勉強を教えあったり、ときには成績や資格試験合格を競い合ったりしているのはこのクラス独特のものでした。

さて、みなさんはこれからそれぞれの道を進んでいくことになります。次のステップでもみなさんの個性を発揮して充実した日々になることでしょう。自信を持って行動すれば大丈夫です。もし、誰かに頼りたくなったら、クラスの仲間、同窓生、先輩に話をしてみてください。きっと、今までそうやってきたようにさりげなく手を差し伸べられたり、集結して励ましてくれたり、新たな見方を提示してくれたりするはずです。私たち教職員もみなさんの成長を遠くの地で見守りつづけたと思っていますので、たまには学校に近況を伝えに来てくれると嬉しいです。また、今後、本校の教育に関して卒業生を頼るときもあると思いますので、そのときはよろしくお願いします。さあ、張り切って前に進みましょう。



生物資源工学科

5 学年学科担任
田中 博

皆さんがそれぞれに、新しい世界に飛び立っていくことを、心から嬉しく、また楽しみにも思います。そのうちに“量”と“質”とがボリュームアップした皆さんに会うことを、今から楽しみにしています。皆さんが入学した2011年4月に、私も沖縄高専にやって来ました。入学式の日、ピロティで皆さんと最初に出会ったことを、覚えていて。3年からは担任として、一緒に時を過ごしてきました。この時間の中で発信し続けてきた「3つの力」を、また、ここで繰り返し伝えます。

1. 自分の頭で考える(力):「考える」ためには、意思とエネルギーが必要です。この力をこれからも鍛え続け、そして存分に発揮してください。結果を恐れず、周りを気にし過ぎずに、まず「自分の頭で考える」ことに、自らの意思で挑戦しよう。そして「考えたこと」を持ち寄ることが、次に必要です。
2. リーダーシップを発揮する(力):「リーダーシップ」とは、ひとり一人が持っていて、ひとり一人が発揮できる力です。その色や形、大きさが、ちよつとずつ違うだけです。そして自ら「提案して、行動する」ことこそがリーダーシップを発揮することで、やり方には決まりはありません。自分(たち)の頭で考えたことを、それぞれが持ち寄って具体的な行動に繋げることに挑戦しよう。「青色」のリーダーシップに“赤み”をつけることも、時には必要です。
3. ショックを受ける(力):自らすすんで「ショック」を受ける(=Gapを知る)、この意識と行動が、自分(たち)の世界を大きく広げてくれます。新しいことに気づき、新しいことを理解して自分に取り入れるプロセスは、場合によっては大きなストレスにもなります。このストレスと戦い、付き合っていくことが、それまでに見たこともない、大きくて深く複雑で摩訶不思議、だけれども自分を強く、大きく、そして魅力的にもしてくれるはずで。

2016年1月31日の卒業研究最終発表会において、皆さん1人ひとりがこの3つの力を存分に発揮してくれました。一体感と強いチームワークを感じました。私は、卒業研究は「どれだけ自分で考え、自分で準備し、自分が実行したのか」を評価します。成果の質も重要と言え重要ですが、それよりも大切なことは、自分がどれだけやろうとしたか、やり切れたか、ということだと信じています。3つの力を総動員しても、不甲斐ない思いやいくつもの葛藤があったことでしょうか。そう、まだまだ力不足ということ。だからこそ、これから、この「3つの力」を意識し、これらの力を強く、濃く、大きく、そして「しなやか」にして欲しい。私自身も、まだまだ挑戦します!



機械システム工学科

5 学年
安谷屋 卓矢

高専に入学してからの5年間はあっという間に過ぎていきました。同じ中学からの友人がいなかった私は、入学してから1週間程はとても時間が長く感じました。しかし、寮での共同生活や学科での実習などで、すぐに友人ができて楽しい学校生活になりました。

寮生活では友達との共同生活のため、毎日楽しく過ごすことができ、年に1度行われる寮祭では、アコギでの弾き語りを披露しました。

私はピザと3人組テクノポップユニットのPerfumeが好きで、寮でピザを作ったり、退寮してからは友人の部屋でピザパーティをしたりもしました。アルミ板と火床を使用し、簡易的な窯を自作して、4年生の高専祭でピザの屋台を出店し、用意した材料分を売り切ったときは感動がこみ上がりました。またPerfumeが電飾のついた衣装を使用し踊っていて、それに関心を持ち私もマイコンでLEDの制御回路を組み、友達と電飾を作ってみたりもしました。

普通高に進学していたら、ピザとPerfumeにはまることはなかったでしょう。これらの趣味は高専で5年間を過ごしたからこそ、興味を持つことが出来たのだと思います。

高専を卒業するという事は、共に過ごしてきた、友達と離れるということであり、とても寂しい気持ちでいっぱいですが、しかしその反面、数年後成長した友達と再会し、驚くことが楽しみでもあります。

最後になりましたが、お世話になった教職員の皆様、5年間本当にありがとうございました。



機械システム工学科

5 学年
桐原 遥子

あっという間の5年間でした。入学したころ、ホームシックになっていたことがとても懐かしいです。しかしホームシックはすぐに治り、楽しい学生生活を送ることになりました。もちろん苦しいことや悲しいこともありましたが、体育祭、高専祭、研修旅行など楽しい思い出が圧倒的に多かったように感じます。

高専での勉強は、中学校のときとは比べ物にならないほど難しく、私は、1年生のころから既に落ちこぼれの位置にいました(苦笑)。しかし、勉強を見てくれたり、一緒に頑張ろうと励ましてくれたり、私の面倒を見てくれる友人がいました。私の要領を得ない質問に根気よく答えてくれる先生がいました。その人たちのおかげでここまでやってこれたのだと思います。この5年間、支えてくださった先生方や家族、友人に心から感謝しております。本当にありがとうございました。

こんな私でも、もう卒業します。沖縄高専で学んだことは、学業だけでなく、礼儀、人付き合い、世の中の厳しさ、自分の甘さ、たくさんあります。これから次のステージに進むにはどれも必要なことだったのだと思います。

来年度からは愛知県で生活となります。ずっと寮にいた私には初めての一人暮らしで、土地勘もなく大変だと思いますが、楽しみで仕方ありません。これからも頑張っていきたいです。



情報通信システム工学科

5 学年
永山 香奈子

沖縄高専に入学し、私はもう5年生です。「5年間は長い、小学校とほぼ同じ期間じゃないか」と思っていました、そんなことはありませんでした。本当にあっという間に5年が過ぎていて、けれども思い返すと様々な出来事がありました。

高専生活の中で、楽しかったことやいい経験になったことを挙げるときりありません。台湾留学、研修旅行、体育祭と高専祭での総合優勝、その中でも一番私の思い出に残っていることは、部活動です。私は高専に入学してからテニスを始めました。低学年の頃はただ先輩についていだけでよかったことも、後輩が増えてくるにつれて自分がしっかり意見を言わなければならませんでした。学年が上がるごとに少しずつ自分の意見を言うように成長できたのはテニス部が大きく影響しています。後輩たちも私の話を聞いて、私の悪いところを教えてくれるようになりました。だから私はテニス部もテニスも好きです。

5年の間には、もちろん苦しいこともありました。私が特に苦しいことは就職活動でした。就職に有利と言われる高専ですが、全員が第一希望の企業に就けるわけではありません。私もそうでした。企業から不合格の知らせが届いたときには自暴自棄になり、次にと選んだ企業は私の希望とは全く別の仕事をする企業でした。しかし、いろんな先生にここはあなたには向かないから、もう少しよく考えてと言われました。親や友達、先生に支えられながら、前回の面接でダメだった部分を見直すことで、私の希望に沿った就職先に合格することができました。諦めずに全力で取り組みれば苦しい就職も乗り越えることができるのです。友達や親、とくに学生全員の性格を理解して親身になって考えてくれる先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、経験として物事を後回しにしないで少しずつでも進めていく方が後で苦労しないので、先に先に行動するように心がけて行こうと思います。



情報通信システム工学科

5 学年
原田 拓真

長かったようで短かったような、そんな5年間の高専生活。特に沖縄高専の一大イベントである高専祭では毎年色々なことがありました。なんだかよくわからないお姫様の役として凄く中途半端な女装をさせられ、1年目にして黒歴史を作ってしまった劇。2年生のとき、今度はクラスの級長として参加し裏方のあまりの大変さに嫌気が差していたコスプレスタンプラリー。3年生では出し物として市販のゲームを持ち出し、学生会と軽く争いになったゲームセンター。4、5年生のときも同じくゲームセンターを出店し、2年連続優勝することができました。

また、1年生の頃から続いていたロボット製作委員会では、高専ロボコンに向けて休日に休む暇もなくほとんど毎日活動し、学校の授業では学べない技術をたくさん身につけることができました。そして、3年生になる頃にはロボットの制御方法の構想を決めたり、回路の設計を行ったりする重要な役割を担うようになり、4年生のときに参加した高専ロボコンでは全国大会に進出することもできました。この活動を通してロボットの制御について学習したいと思い、今後の進路を決めるきっかけにもなりました。他にもたくさんの出来事があり、それも今ではいい思い出となっています。

この5年間で勉強による知識や技術だけでなく、たくさんのものを得ることができました。その間私を見守り、支えてくださった教職員の方々、特に5年連続で私達のクラス担任を務めてくださった兼城先生や卒業研究でお世話になった杉本先生には感謝の気持ちでいっぱいです。卒業後私は大学に進学することになりますが、この5年間で培ったことを活かし社会で活躍できる人材を目指して精進していきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。



メディア情報工学科

5 学年
當眞 ジェyson 翔

「ゲームを作りたい!」

と志して沖縄高専に入学して5年が経ちました。ですが、私は卒業後は県外の大学へ進学します。最初に抱いていた夢が大きく変わるくらいに、たくさんの出会いと刺激に満ちた5年間でした。

自分の高専生活を振り返ってみると、大部分で部活動に力を注いでいました。所属していたICT委員会では、競技プログラミングを通して、数学や情報科学について授業よりも多くの事を学びました。学んだ知識を活かして、県外で開催される大会に何度も出場できました。また、先輩たちと共同でシステムを作ったり、後輩にプログラミングを教えたりすることを通して、集団開発の方法やチームで活動する事の大変さ、うまく物事を伝える方法など、勉強以外の面をとっても多く学ぶことが出来ました。また、部活を通して、6つ上の先輩から4つ下の後輩までという幅広い範囲の学生と接する事ができ、とても長い縦の繋がりが築けました。

部活から離れ、学校では体育祭があったり、高専祭では5年のうち3年間自分の名前を冠した催し物をしたり、PBLがあったり、研修旅行があったり、インターンシップがあったり、苦しい卒業研究があったり、厳しい受験があったり、……。寮には5年間居続け、指導寮生をしたり、……。一つ一つの出来事が本当に昨日の日のようです。楽しかったことも、うまく出来なかったことも、今ではどれもいい思い出で、それぞれの出来事での経験を通して今の自分があることを実感します。

部活動の先輩や後輩、5年間一緒に頑張ってきたクラスメイトの皆、そして、僕の5年間の活動に携わってくれた教職員の皆様や関係者の皆様には感謝してもしきれません。卒業後も沖縄高専での経験を活かし、邁進し続けていきたいと思っています。



メディア情報工学科

5 学年
島袋 可奈子

入学当初、ホームシックで泣いていたころは「卒業」を遙か遠くに感じていたのに、まさかこんなにも早くやってくるとは思いませんでした。

高専での5年間を振り返ってみると、部活や寮生活、高専祭、研修旅行、インターンシップ、就職活動、卒業研究など、思い出深い出来事が多くあり、とてもこのスペースには収まりきれません。私がこんなにも充実した日々を送れたのは、共に学んできた8期メディアや野球部のみんな、素敵な友人や先輩方、また心強いサポートをしてくれた先生方のおかげです。特に、5年間所属した野球部では、日々の練習や春夏の合宿などたくさんの思い出ができました。その中でも、3年生の夏の大会で1回戦突破したときの感動は今でも忘れられません。高専で野球部のマネージャーとして部員のサポートができたことは私の誇りです。

また、8期メディアの個性の強い仲間たちとも、研修旅行に体育祭でのお好み焼きパーティー、高専祭の人狼ゲーム、リアル脱出ゲームとたくさんの思い出ができました。マイペースな私をいつも広い心で受け止めてくれ、困ったときには手を差し伸べてくれる、そんな優しい同級生たちのおかげで、毎日をのびのびと過ごすことができました。そんな日々も残りわずかだと思うととても寂しくなりますが、8期メディアとして過ごせる残りの期間、悔いの残らないように全力で楽しみたいと思います。

この4月にはいよいよ社会人デビューです。期待と不安が半端ずつといった心境ですが、高専で過ごした日々を胸に、自信をもって突き進みたいと思います。

最後になりますが、これまでお世話になった教職員、寮事務の皆様、そして、いつも私の意志を尊重し応援してくれた両親に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



生物資源工学科

5 学年
ブリグト ブリグサイハン

今年の3月で、沖縄高専を卒業します。月日は早いもので、沖縄高専に編入してから3年間も経っていますが、まるで1年間のように感じています。それは沖縄高専での生活がとても充実しており、楽しかったからだと思います。

私にとって、日本は外国であり、さらに沖縄には独特の方言があるため、「友達できるかな」「授業についていけるかな」「ちゃんと進級できるかな」等、とても心配でした。しかし、来た初日から寮の私の部屋に話しかけに来てくれたり、辺野古の町を案内してくれたりなど、温かく歓迎してくれて心配はすぐに消えました。慣れない環境の中で、時にはホームシックになったり、寂しくなったり、何もできなくて地団駄を踏む日もありましたが、友達と遊んだり、皆で笑ったりして過ごしているうちに、あっという間に3年経ってしまいました。

専門の技術や勉強をするために留学した私でしたが、沖縄高専での学校生活、人との出会い、思い出をきっかけに、単なる技術者ではなく人間性のある技術者になりたいという目標を与えてくれました。この3年間、自分が周りにとって頼れるような存在ではなく、ずっと皆の助けをもらって来ましたが、皆から学んできた礼儀、人間性、親切さを、これから大いに活かし、多くの人の支えになりたいと思っています。

私をここまで支えてくれた友達、先生方、家族に心から感謝しています。3年間、ありがとうございました。



生物資源工学科

5 学年
渡嘉敷 悠大

おろしたてのスーツに身を包み、不安と緊張で胸がいっぱいだった入学式から約1800日。私は無事、5年間の高専生活を終えようとしています。5年間を振り返ってみると、A4用紙1枚ではまとめられないほど濃厚な学生生活でした。

今年1年間を振り返ってみただけでもたくさんの思い出があります。体育祭や高専祭、スポーツフェスタでは、表彰されるような結果は残せませんでした。しかし、空きコマにクラス全員でリレーの練習をしたり、6秒動画を撮るために6時間肉体労働したり、映像編集を徹夜で行ったり、屋台で売り上げを出すためにみんなで力を合わせたりと、優勝する気で臨んだバレーボールで1年生に惨敗したりと(笑)、とても濃い思い出が目を開けると鮮明に蘇ってきます。また、私たちは6月10日に今までに受けたことのないような大きなショックを受けました。ですが、そのショックを乗り越えられたのも「8期生物」という最高の仲間に恵まれたからだと思います。

先生方にもたくさん力を貸してもらいました。成績も下から数えた方が早いような私でもどうにか5年間で卒業でき、就職先も無事に決まったのは「挨拶・笑顔・体力」が合言葉の学科担任、プロテインマスターの担当教員を始め、先生方のお力添えをいただいたおかげです。ありがとうございます。本当に土下座したいレベルで感謝しています。

他にも両親や先輩方、後輩、アルバイト先の上司など数えきれないほどの人に支えられ今日まで生きてこられました。4月からは社会人として、20年間育ててくれた親元を離れ、1人前の大人になり、今度は私が人を支えられるような人間になれるよう精進して参ります。

渡嘉敷悠大に関わってくれたすべての方々、今までありがとうございました。これからもよろしくお願いします!!

第1学年主任より

第1学年主任
森田 正亮

この原稿を書いているのは後学期末試験の試験返却期間で、昨年四月の入学式から始まった一年生としての一年間が終わろうとしています。来週には入学試験（学力検査による選抜）が行われます。間もなく後輩たちが入学してきます。今の一年生も、一年前には本校で勉学に励むことを目指す、受験に向けた準備に余念のない受験生であったはずですが、さて実際、この一年間で自分はどのくらいのことを学び成長したか、自分が後輩を指導する先輩としてふさわしいか、ということのを改めて問い直してほしいと思います。

「高専だより 19号」に書いた通り、今年度の一年生は、少なくとも当初は他の学年に比べて遅刻や欠課が少なく、生活態度がきちんとしている学生が多かったと言えるのですが、残念ながら最近は、朝寝坊してくる学生や、授業中の居眠りが常態化している学生もいるようになりました。クラスによっては半数近い学生が居眠りをしていて、教員に起こされても逆切れしたり、あるいはピクリとも動かない学生までいます。「試験で点数さえ取れば、それでいい」という考えを露骨に態度で表した、学ぶ姿勢に欠けた学生の存在が、本校の屋台骨を揺るがしている、と言えます。その様子はさながら「場末の工業高校」のようです。いや、このように書くことはむしろ「場末の工業高校」に対して申し訳ない気さえします。

上記のような学生には特に注意を払って常時面談や助言をしておりますが、ご家庭におかれましても注意いただければと思います。また、成績や学習態度について、お聞きになりたいことがございましたら、いつでも学級担任や学科担任にご相談ください。

今後とも、保護者の皆さま方のご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



第2学年主任より

第2学年主任
渡利 正弘

日頃より沖縄高専の教育に御理解と御協力をいただきまして誠にありがとうございます。この原稿を書いているのは、今年度が残すところ約2ヶ月となりました1月の末です。現在、学生達は目前に迫った最後の定期試験である学年末試験に向かって、奮闘している最中です。この原稿が高専だよりとして出版され、皆様のお手元に届く頃には平成27年度の行事はほとんど終了し、彼らのこの1年間の取り組みの成果が成績として確定していることと思います。どの学生も悔いのないようしっかり頑張してほしいと思います。

昨年の4月に始まった第2学年ですが、この1年間を振り返ると、勉強以外の学校行事にも積極的に取り組んでくれる学生の多いことが印象的でした。特に学校や学生寮などを運営する委員会の役員などに、2年生がリーダーとして活躍してくれる場面が数多く見受けられました。このような経験は社会に出てからも役に立つだけでなく、後で振り返ったときにかけてえのない思い出になることと思います。この先も上級生となり、その機会がますます増えていくでしょう。彼らがどんな沖縄高専を作り上げていくのか、今からとても楽しみです。ただこういった活動を頑張る反動からか、授業がおろそかになる場面が少なからずみられたことがとても残念です。学校の行事を言い訳にせず、授業もしっかり頑張してほしいところです。また2年生に限った話ではありませんが、授業で手を抜いても試験で点数をとればそれでいいという雰囲気の一部の学生から感じてしまいます。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉がありますが、やるべきことをきちりとやってこそ結果がついてまいります。努力をしないでの、根拠のない「なんくるないさ〜」では、必ず行き詰ってしまいます。そのためには『なぜ自分は今高専でこの勉強をしているのか』という意識がとても重要になってまいります。第2学年ではこの1年間、学年行事として意識付けのためのキャリア教育などを実施してまいりましたが、それを活かせるかどうかは最終的には本人次第です。個人的にも年度開始当初から、安易な勉強法に走らず、5年後、10年後を見据えて毎日の授業を大事にしてほしいと伝えてきたつもりです。が、どこまで学生に伝わったのかは自信がありません。前号の高専だよりにおいて「まだ2年生ではなく、もう2年生という意識を持ってほしい」と書きましたが、今度は3年生となり名実共に自分の人生を自分で決めていかなければならない時期に入ります。ここで今一度、自分はなぜ高専に入学したのか、何をするためだったのかを自問自答し、気持ちを新たに4月を迎えてほしいと思います。またぜひこの機会に、ご家庭でも将来の進路についてお子様と話し合う機会をもうけていただければ幸いです。今後とも保護者の皆様方の御協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。



第3学年主任より

第3学年主任
津村 卓也

月日が経つのは早いもので、一昨々年の4月に本校10期生である169名が入学してからこのメッセージを書いている平成28年1月までで、既に2年9ヶ月が過ぎました。現在3学年には、機械システム工学科に在籍するカンボジアからの留学生1名を含めた156名が在籍し、昨年4月から3年目になる高専生生活を過ごしてきました。

3年目の今年は、混合学級から学科別のクラスが始まり、また一部の学生は全寮制であった学生寮を離れ、近くのアパートで一人暮らしを始めた。また自宅から長時間かけて通学をしたりと、これまで慣れ親しんで来た環境が大きく変化する年となりました。年度初めには、混合学級で仲の良かった友達を訪ねて他学科教室に居たり、他学科生と食堂やラウンジで一緒に食事をしたりする姿をよく見かけましたが、専門科目だけでなく一般科目もクラス単位で学び、また4月末の体育祭、11月初めの高専祭などの行事の企画、準備など、学生自ら計画し各クラスで協力して取り組むことを通じて徐々にクラスの結束も高まり、今ではクラスメイトと一緒に行動する姿や、ラウンジでは他学科生を交えて食事や一般科目の勉強を一緒にする姿を見る機会が増え、友達の輪が学年全体に広がった印象を受けております。

3年生は高専生生活の折返し点であり、今後の進路を決める大切な時期になります。3年生以降で行われるイベントは、進路決定に関わるものが大半となります。昨年の12月2日～5日の日程で行われた研修旅行では、機械システム工学科が関西、情報通信システム工学科が台湾、メディア情報工学科が関西、生物資源工学科が東京を訪れ、それぞれの専門に関連する県外や国外の業界・企業の見学や協定校を訪問し、さまざまな体験をしてきました。研修旅行の体験を通じて、実際の仕事について理解を深め、自分の能力を生かせる職種や自分の知らない業界を知り、働く事への意識が高まるとともに、企業情報の集め方を学んで訪問先企業の事前調査をしたり、自由行動や自主研修の行き先・交通手段・スケジュールなどをグループ別に考えたりする事で、主体性も養われたことと思います。

4年生以降は、夏休みに行われるインターンシップ、会社説明会や大学による進学説明会など進路を考える上で重要なイベントが開催されます。今後の人生に大きくかわる進路を決めることは大変かと思いますが、一見自身に関連がないと思われるような時事・社会問題などにも興味を持ち、主体的・積極的に情報を集め、悔いのない進路決定ができるように努力して下さい。また、残り半分を切った高専生生活を、目的意識・やる気をさらに高め、日頃勉学に励みつつ、主体的に楽しく過ごして欲しい。学生の皆さんのさらなる成長を期待しております。



第4学年主任より

第4学年主任
嶽本 あゆみ

第四学年は夏期休暇期間に全員が、一週間の就業体験であるインターンシップを終えました。沖縄高専はインターンシップが必修つまり全員が実施しなければならない科目であり、このことは全国の高専はもとより大学でも珍しいことです。一定期間、通常の勉強や実験実習とは異なる「就業」を体験することは、ただ単に学校の外を体験するだけとは異なり、自身の関わり方を知り将来にむけた進路を決定するための大きな教育効果が得られるものです。インターンシップ派遣先を決め、実施のための電話やメール、各種書類のやりとり、マナー講座や着こなしセミナーなど、準備で前期を費やしました。インターンシップ実施期間中にはありがたいことに大きな事故等はなく、無事に就業体験を終えた安堵もそこそこに各々がインターンシップ報告会にて就業体験を振り返り、インターンシップ開始初日と同様のスーツ姿で、派遣先で体験したこと、就業体験を通して学んだこと、これから活かしていくこと、派遣先への感謝の言葉と共に、来年度にインターンシップを経験する後輩達へのメッセージが伝えられました。インターンシップ派遣先をはじめ、内外の数多くの御協力を得て、こうしてインターンシップを無事に終えられたことに深く御礼を申し上げます。

後期には二度に亘り、数多くの企業にお集まりいただいた業界研究会が開催されました。平成28年度の就職活動解禁は6月と、今年度よりも二ヶ月前倒しになっています。めまぐるしく変化する状況の中で、情報に振り回されるのではなく情報を活用し、自ら希望する就職や進学にたどり着けるよう、活動を始めるための準備と情報収集は非常に大切です。五年生になれば卒業研究という一年間を通して空き時間のすべてを費やす、高専での学びの総まとめが待っています。就職活動あるいは進学のための受験勉強を、この卒業研究と両立させることは決して楽なことではないでしょう。ですが、次の一年間での過ごし方が、各自の将来の方向性を決定づけることは間違いありません。卒業式では一学年上の先輩方の旅立ちを見送りながら、一年後の自分の旅立ちを想像し、その想像を現実のものとするために、それぞれが精一杯の努力を重ねていくことを望みます。



第二回業界研究会の様子



機械システム工学科

4 学年
青木 隆志

私がインターンシップに行った企業は群馬県太田市にある東亜工業株式会社です。この企業は主に富士重工のティア1として車体部品を製造しています。5日間の期間を過ぎて開発・設計・生産がどのようにして行われているか、学校で習ったことがどのように役に立っているかを見て触ってきました。

東亜工業株式会社は主に鉄鋼をプレスで加工しているメーカーです。このような業種で、学校で勉強してきた何が役に立つのかという質問とにかく「材料力学」が重要であるといわれました。機械系での「材料力学」はすべての基本だとは思いますが、今は昔と違い設計を3D CADで行っていて力学を考えなくてもCADの操作方法さえ覚えればそれらしい形にできてしまうそうです。それでは設計者の意味がなくCADを使っているのでもなくCADに使われているだけだとおっしゃっていました。なんでもコンピュータで出てしまう時代ですが、計算の考え方などは習得しておかなければならないということがわかりました。

インターンシップに参加する場合「学校推薦」「公募」「自己開発」などの方法があります。わたしの場合は「自己開発」で自ら動いて企業をお願いするという形になるのですが、沖縄高専ではほとんど企業で働いていた先生が在籍していて各方面様々なコネクションをもっている先生ばかりです。先生に相談することで思いもよらない所に行けたので、闇雲に企業にアプローチをかけるよりまず先生に相談することがおすすめです。

企業に行く際事前学習は必須で、会話では専門用語が飛び交うことが多いです。

わからないとその都度会話を止める事になってしまうので、その業種の基本的な用語は覚えておいたほうがいいと思います。

インターンシップを通して自分がこの学校にきて正しかったという再確認ができ、新しい目標も持つことが出来ました。



機械システム工学科

4 学年
山田 航太郎

私は、8月下旬から9月上旬に、航空機の整備関連の2社のインターンシップに参加しました。1社は航空技術者プログラムの一環として、東京都にあるANA訓練センターで実習させて頂き、もう1社は、学校推薦という形で、沖縄県のJTAに5日間ずつお世話になりました。私がこの2社のインターンシップに参加した理由は、航空機に興味があって航空技術者プログラムを履修しており、将来、航空関連の職業に就きたいと考えているからです。研修内容は、ANAでは主に座学で、航空機整備士に対して求められる航空機の基礎知識を学び、飛行機に関する知識を増やすことができました。整備を行う格納庫やフライトシミュレータの見学、懇親会もあり、整備士の方からたくさんのお話を聞くことができました。また、実際の整備現場を見学させて頂き、航空機整備という一つのミスも許されない「責任感」というものを肌で感じ取ることができました。JTAでは、5日間、担当の整備士の方につき、実際の整備作業を隣で見学させて頂いて、その際、飛行機の部品や構造などについて親切に教えてもらい、実物の飛行機で見て聞きたかったので、座学で学んだことに加えて知識をさらに深めることができました。また、実際の整備作業マニュアルを読ませていただきましたが、すべて英語なのでほとんど理解することができず、英語をもっと勉強する必要があると感じました。

私はこのインターンシップで、航空整備は、一つでもミスをすると重大な事故につながる恐れがあるため、常に責任感を持って考えて行動すること、航空整備士になるためには、機体ごとに資格が必要になるため、航空機に関することを広く理解しなければならず、高専で学ぶ英語や機械関係の講義が非常に重要になることを学ぶことができました。また、企業の方々から直接話を伺うことができたため、今後の就職活動に大変意義のあるものになりました。このインターンシップを通して学んだことを意識して、これからの学生生活で役立てていきたいです。

そして、これからインターンシップへ参加する方々へ。インターンシップは、その企業のことを知ることができ、直接話を伺うことのできる大切な機会です。ぜひ真剣に考えてインターンシップに参加してください。



情報通信システム工学科

4 学年
座間味 愛樹

私は全日本空輸株式会社（ANA）と日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA）の2つの企業にインターンシップでお世話になりました。

どちらの会社も航空系で5日間というところには違いはありませんが、ANAでは主に座学、JTAでは実習という内容でした。

私は本校に今年から開講されている、航空技術者プログラムを履修しています。ANAのインターンシップには、そのプログラムの一環として参加しました。インターンシップは5日間とも東京の訓練センターで行われ、航空機の種類や構造、材料などの基礎の部分からシステムやエンジンについての講義が主に行われました。それに加えシミュレータ見学や格納庫の見学をさせていただきました。整備士の方々、運航乗務員や客室乗務員の訓練の様子、それを指導する教官の厳しい言葉を目の当たりにして気持ちが引き締まりました。立派な整備士になるために今まさに努力をしている人がまわっていることは、とても良い刺激となりました。

JTAのインターンシップは、ANAでの講義を中心としたものとは別に、実際に整備をしている現場を体験したくて参加しました。那覇空港で5日間の実習でした。毎日違う整備士の方がついてくださり、整備作業の見学や実機を使った動作説明をして頂きました。入念な指導の下、実際に作業を手伝うといった経験もできました。本物の飛行機に自分が触れると思うと、とても感動したことを覚えています。

今回の両社のインターンシップを通して、最も印象に残っている言葉は『自分の身は自分で守る。それとともに仲間を怪我をさせない』です。そのために声に出すことや確認すること、といった一見当たり前のように感じることも重要であることがわかりました。自分のためだけではなく、相手のために想う行動を心がけようと思いました。

自分の学科の勉強とは、かけ離れた分野も多いと感じました。しかし、自分には無理だと思うのではなく、勉強して練習して自分のものにすればいいと思うようになりました。

これからインターンシップに行く皆さんには、とにかく積極的に熱心な姿勢を見せてきてほしいです。私も難しい事を極めるために挑戦するという気持ちを持って、自分が納得できるような学生生活を送りたいと思います。



情報通信システム工学科

4 学年
具志堅 匠

私は9月中旬に行われた第2回目の大阪ガス導管事業部コースのインターンシップに5日間参加させて頂きました。大阪ガスは主にガスの製造・販売、ガス機器の開発、ガス発電を行っている会社です。大阪ガスの夏のインターンシップは高専生と大学生で分けられています。全部で3回あり、それぞれ40人程度が参加しています。コースは「製造」「導管」「エネルギー」「リビング」の4つで、第一希望から第四希望まで選び、参加したい理由や自己PRなどから選ばれる。今回沖縄高専から大阪ガスへの希望者は全体で10人程度で、受かったのは情報から2人、機械から1人の計3人でした。

インターンシップの内容は、初日と2日目と最終日は第2回目に参加した全員で行動し、3、4日目はコース別で行動しました。初日に5人1グループに分かれ、インターンシップでの重点テーマについて個人用とグループ用を作成し、発表しました。初日にインターンシップでの目標を改めて考え、グループの人たちがどうしているかを考えるのか知ることによって充実したインターンシップを過ごすことができました。全体行動ではおもに工場の見学を行い、LNGが海外から輸入され各家庭に届けられる一連の流れやガスの耐久性、ガスタンクの安全性やガス機器について学びました。私の参加した導管では避難訓練に参加させて頂き、ガスの漏洩している地域の特定やそれに伴った食料の調達手段を学びました。実際にガスの修繕現場の様子や、ガスの圧力を変化させる機械も見学しました。ガス管は住宅街の下にもあるため、住宅街のガス管が損傷した場合の周囲の安全確保や損傷の仕方によって修繕方法が異なるため、迅速で正確な対応が求められるということがわかりました。最終日はいろいろな作業をしたあと面接があり、とても緊張しました。

5日間のインターンシップを通して、仕事をするとはどういうことなのか、どういうことを考えながら仕事をするのかなど社会人に必要なことや、エネルギーを扱う会社には必須な日頃からの安全に対する高い意識を学びました。私は高専卒業後の進路について悩んでいたのですが、インターンシップに参加している学生が全員高専生のため、似たような職に興味のある県外の高専生と話し合うことができ、自分の進路について深く考えることができました。大阪ガスのインターンシップを考えている方がいたら、初日から積極的に質問する姿勢をとり、担当してくださる社員さんと仲良くなるというのを目指していただくのも充実したインターンシップになると思うので頑張ってください。



メディア情報工学科

4 学年
西銘 政紀

私は8月24日から8月28日まで東京都西新宿にあるさくらインターネット（東京支社）さんにインターンシップでお世話になりました。

このインターンシップはインフラエンジニアコースとソフトウェア開発エンジニアコースの2コースのどちらかに参加することになっており、私はインフラエンジニアコースとして参加しました。

私がこのインターンシップに参加したのは、業務で使っているサーバーをセットアップしてみたかったのと、私が現在さくらインターネットさんのサービスを使っており、このサービスがどういう風に稼働しているかを知りたかったからです。

このインターンシップは事前課題というものがああり、冗長化を持たせたシステムの構成を考えてくというものでした。私は冗長化が何かは知っていたものの、実際にそれを考慮してシステムを構築した経験はなかったのでチームメンバーに助けてもらいながら自分のできる範囲のことをやりました。

インターン期間中では事前課題のフィードバックを社員さんからもらったあと、3日かけてブラッシュアップし、最終日に私たちのチームが構築したシステム上にソフトウェア開発エンジニアコースのチームが作ったアプリケーションを載せて無事に稼働させることができました。

期間中ではそのほかに東京にあるデータセンターの見学や事前課題のシステムを構築するマシンを業務で使用しているマニュアルを見ながらセットアップしたり社員の方から業務での体験談などたくさんのことを聞いたり学んだりすることができました。

今回のインターンシップでは前から興味があったIT業界のインフラエンジニアという職種を体験することができ、将来就職するときのイメージがしやすくなりました。また、社員の方たちにはトラブルが起きたらすぐに解決して頂いたりわからないところがあれば丁寧に教えて頂いたりとお世話になりました。

これから自分も社員の方たちに負けないくらい技術をつけて自分を磨きたいと思いました。



メディア情報工学科

4 学年
中島 帆乃香

私は8月下旬の10日間、神奈川県にあるアイフォーコム東京株式会社・相模原開発センタにお世話になりました。アイフォーコムは環境システム、医療・介護システム、教育システムを中心として、様々なプロダクト・サービスより最適な事業環境を提供している会社です。

インターン実習生は全員で5人いて、私は医療施設向けサーバーアプリケーションの開発などを行っている医療システム課に配属されました。

研修内容は、生理検査システム「Prime Vita Plus」の依頼詳細画面と、単体試験仕様書の作成でした。開発言語がVBScriptという初めて使う言語だったので、慣れるのに時間がかかり悩むことが多かったのですが、担当の方がわからないところを丁寧に教えて下さったので、研修が終わる頃には楽しく仕事ができるようになりました。

社員の方との懇談会もあり、研修では関わることでできない他の部署の人達からもお話を聞くことができました。また、同じインターン実習生の他高専や大学の人達とも仲良くなり、これからの就職活動に向けて、お互いの意識を高め合うことができました。

今回のインターンシップでは、実社会の中に身を置くことで、働くことのイメージを掴むことが出来たと思います。インターンシップを通して学んだ挨拶・礼儀・マナーなどの社会人基礎力をもっともっと高め、今後に繋げていきたいです。

初めて一人で沖縄から出たので不安もありましたが、県外のインターンシップに参加して本当に良かったと思います。とても充実した、素晴らしい2週間でした。



生物資源工学科

4 学年
奥田 愛未

私は、9月上旬に花王株式会社の和歌山研究所 解析科学研究室にて9日間のインターンシップを体験させていただきました。

期間中は社員寮に宿泊しました。寮では他高専からのインターンシップ生と交流を深めることができ、非常に充実した生活を送ることができました。

インターンシップは実験が主な内容で、イオン交換クロマトグラフィーやNMR、LC/MSなどを用いて液体洗剤の基礎的な分離分析を行いました。授業で学んだ知識を実際に活用することができ、実験ノートを詳細に記録することの大切さを実感しました。その他の研修内容として、初日に工場見学と企業概要説明があり、最終日の成果発表では他の研修テーマの発表も聴き、企業について深く知ることができました。研修前、私は会社内に対して固いイメージを持っていましたが、実際の雰囲気はとても温かく、終業後の部活動に参加させていただくなど、社員の方々に優しく接していただけました。高専卒の社員の方も多く、研究や就職活動に対するアドバイス、仕事内容などに関してのお話をたくさん聞くことができました。

インターンシップ後にも企業に提出する課題があり、インターンシップ生のことを深く知ろうとしてくれているのだと感じました。インターンシップは企業や社会のことを知るだけでなく、自分のことも知ってもらえる非常に大切な体験なので、将来の進路を決めるつもりで真剣に取り組んでほしいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中受け入れてくださった企業の方々とお先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



生物資源工学科

4 学年
知念 孝樹

私は、沖縄製粉株式会社に5日間インターンシップでお世話になりました。将来、私は食品関係の職に就きたいと考えていて、県内の企業について知りたかったこともあり、沖縄製粉株式会社を志望しました。インターンシップでは、品質管理室、衛生検査室、特産流通事業部の3つの部署を回って各部署でどのような仕事を行っているのかを見学、実習するというもので、食品の成分分析、工場見学、衛生検査などを行いました。そのなかで私が常に考えていたことは、日々の授業や実験など高専で学んでいることが社会に出てどのようなどに役に立つのかということでした。学校で勉強していることのなかで社会にでて役に立つのはごく一部だと思っていましたが、実際に5日間で体験してみると全然そんなことはありませんでした。挨拶からはじまり、課題解決のための考え方、実験の基礎的な操作、基礎計算など、1週間弱だけでも様々なことが役に立ち、日々の勉強の大切さを改めて実感しました。特に挨拶は、その人の印象がそれ1つで全然変わってくるので、1番初めにとる行動であり、最も重要な行為であると感じました。インターンシップを行って印象に残っていることは、社員の皆さんが楽しそうにお仕事をしていることです。作業を黙々とこなしながらもみなさんコミュニケーションをとり、笑顔があつて、とても雰囲気の良い企業だと感じました。このインターンシップを通して学んだことは基礎・基本の大切さです。挨拶でも、1つの作業や実験・研究でも、基礎は当たり前なことだけど、だからこそみんなに見られるし、その地盤がなくなるとそこからの積み重ねが上手いきません。そのことを意識しながら残りの学生生活を励んでいきたいと思っています。

就職・進学状況

【平成 28 年 3 月卒業予定者の進路状況】

平成 28 年 3 月 1 日現在

	区分	学 科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
進学状況	卒業予定者数	34	38	37	36	145
	進学希望者数	15	11	7	14	47
	合格者数※ 2	14(2)	10(1)	6	14(1)	44(4)
	うち専攻科合格者数	9	8	1	8	26
	うち 3 年次編入等合格者数	7	3	5	7	22
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	0	0
	進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	93.3%	90.9%	85.7%	100.0%	93.6%
	進学先※ 1	沖縄工業高等専門学校専攻科 (9) 九州工業大学 豊橋技術科学大学 (3) 琉球大学 (3)	沖縄工業高等専門学校専攻科 (8) 長岡技術科学大学 新潟大学 電気通信大学	沖縄工業高等専門学校専攻科 (1) 長岡技術科学大学 九州工業大学 東京大学 琉球大学 新潟大学	沖縄工業高等専門学校専攻科 (8) 香川大学 琉球大学 (2) 熊本大学 長岡技術科学大学 岐阜大学 東京農工大学	
内定状況 (内々定含む)	就職希望者数	19	27	30	22	98
	内定者数 (内々定含む)	17	27	27	17	88
	内定率 (内定者数/就職希望者数)	89.5%	100.0%	90.0%	77.3%	89.8%
	就職先企業名※ 1 (県内) 県内に本社のある企業	MRO Japan 株式会社	沖縄三菱ビルシステム株式会社 株式会社創和ビジネス・マシンズ 琉球エア・コンピューター株式会社 MRO Japan 株式会社 株式会社ベアック沖縄 (2)	株式会社 ODN ソリューション MRO Japan 株式会社 株式会社琉球ネットワークサービス (4) 沖縄グローバルシステムズ株式会社	沖縄電力株式会社 株式会社サウスプロダクト	
		計 1 名 内定者に占める割合 6%	計 6 名 内定者に占める割合 22%	計 7 名 内定者に占める割合 26%	計 2 名 内定者に占める割合 12%	計 16 名 内定者に占める割合 18%
	就職先企業名※ 1 (県外) 県外に本社がある企業	株式会社日立ビルシステム 株式会社往原製作所 (2) ダイキン工業株式会社 株式会社ビームデザインコンサルタント ニプロ株式会社 サントリープロダクツ株式会社 村田機械株式会社 小倉クラッチ株式会社 大阪ガス株式会社 山九株式会社 株式会社 M テック フジケンエンジニアリング株式会社 富士重工業株式会社 株式会社タマディック リョービ株式会社	サントリープロダクツ株式会社 株式会社東芝 社会インフラシステム社 富士電機株式会社 村田機械株式会社 株式会社 N T T フィールドテクノ 株式会社 ドリーム・アーツ 株式会社 NS・コンピュータサービス ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社 日本オース・エレベータ株式会社 大阪サニタリー株式会社 昭和電工株式会社 株式会社東芝 電力システム社 株式会社ヒップ エスアイエス・テクノサービス株式会社 株式会社すかいらく 株式会社アルメックス PSP 株式会社 富士テクノサービス株式会社 矢崎総業株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社 N T T ファシリティーズ	株式会社 テクノ・菱和 株式会社 クリエイトビキャスト (2) エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 日立アイ・エヌ・エヌ・ソフトウェア株式会社 株式会社 ネットワールド パナソニックアドバンステクノロジー株式会社 株式会社日立ハイシステム 21 キャッツ株式会社 株式会社 トヨタコミュニケーションシステム 矢崎総業株式会社 京セラコミュニケーションシステム株式会社 株式会社 IMAGICA 株式会社 SOLIS produce ヤフー株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社富士通九州システムサービス 日立 SC 株式会社 株式会社富士通ソリューションクリティカルシステムズ 株式会社 ディー・エヌ・エー	一般社団法人農山漁村文化協会 第一三共プロファーマ株式会社 (2) 三洋化成株式会社 (4) 雪印メグミルク株式会社 サントリープロダクツ株式会社 (2) 旭化成株式会社 テバ製薬株式会社 理研ビタミン株式会社 フジアルテ株式会社 花王株式会社	
		計 16 名 内定者に占める割合 94%	計 21 名 内定者に占める割合 78%	計 20 名 内定者に占める割合 74%	計 15 名 内定者に占める割合 88%	計 72 名 88% 内定者に占める割合 82%

※卒業予定者数等には留学生を含む。

※ 1. 同一企業に複数名の学生が内定 (内々定含む) した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を () 内に示しています。

※ 2. 複数校に合格した者がいる場合、その人数をその人数を () 内に示しています。

【平成 28 年 3 月修了予定者の進路状況】

平成 28 年 3 月 1 日現在

区分	コース				合計
	機械システム 工学コース	電子通信システム 工学コース	情報工学 コース	生物資源 工学コース	
修了予定者数	6	6	3	12	27
進学希望者数	2	4	0	3	9
合格者数※ 2	2	4(1)	0	3	9(1)
うち大学院等 進学予定者	2	4	0	2	8
進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
進学先※ 1	長岡技術科学大学院 九州大学大学院	九州大学大学院 琉球大学大学院 筑波大学大学院 豊橋技術科学大学 大学院 北陸先端科学技術大学院 大学		東京工業大学大学院 総合研究大学院大学 【その他】 大阪大学 (研究生)	
就職希望者数	4	2	3	9	18
内定者数 (内々定含む)	4	2	3	9	18
内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職先企業名※ 1 (県内) 県内に本社 がある企業	自営業		株式会社琉球ネット ワークサービス 株式会社ラジオ沖縄	オリオンビール 株式会社	
	計 1 名 内定者に占める 割合 25%	計 2 名 内定者に占める 割合 0%	計 2 名 内定者に占める 割合 67%	計 1 名 内定者に占める 割合 11%	計 4 名 内定者に占める 割合 22%
就職先企業名※ 1 (県外) 県外に本社 がある企業	株式会社ダイハツビ ネスサポートセンタ ー 富士テック/株式会社 (2)	富士電機株式会社 富士通株式会社	GMOペイジー株式会 社	サントリービール株式 会社 大阪サントリー株式 会社 沢井製菓株式会社 (2) 旭化成株式会社 株式会社ジェイック 株式会社ユニクロ 岐阜グリコ乳業株式 会社	
	計 3 名 内定者に占める 割合 75%	計 2 名 内定者に占める 割合 100%	計 1 名 内定者に占める 割合 33%	計 8 名 内定者に占める 割合 89%	計 14 名 内定者に占める 割合 78%

※ 1. 同一企業に複数名の学生が内定 (内々定含む) した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を () 内に示しています。

※ 2. 複数校に合格した者がいる場合、その人数をその人数を () 内に示しています。

一年を振り返りつつ



専攻科長
眞喜志 治

世に、「特例適用専攻科」という新しいカテゴリーが出現し、立場を問わず、皆がそれに振り回された感のある平成 27 年度が終わりを迎えようとしています。同時に、皆さんが沖縄高専で過ごす日々も終わりを迎えることになります。

この「特例適用専攻科」に本校が含まれたことにより、学位取得のプロセスが大幅に変更され、前例も経験もないまま、手探りの状態で成果を出さなければならない状況に置かれてしまいました。そのような中で“強烈な”前専攻科長の跡を継ぐことはかなりの不安を伴いました。しかし、事の重要性を教員以上に理解し、「履修計画書」並びに「成果の要旨」という未だに実態をつかめていないレポートの作成に、自身の実力を存分に発揮しながら取り組む皆さんの姿を目の当たりにすることで、不安は一掃され、専攻科長として力不足の分を十分に補うだけのパワーをもらうことができました。おかげで、何とか、学位取得のプロセスを無事に終え、皆さんに学位記を届けることができそうです。もちろん、「学修総まとめ科目」である特別研究の発表と論文の審査をクリアすることが前提となりますが、心配は無用と確信しています。

専攻科修了と学位取得に目処が付き、専攻科生として過ごした 2 年を振り返ることもあるでしょう。人類の歩んできた永い歴史から見れば、2 年は微々たるものかもしれませんが、皆さんの未来にとって、貴重な経験を積むには十分な時間であったと思います。本科と比べて、要求されるレベルが格段に高くなり、いろいろな意味で、思い描いていたイメージとは全然違う 2 年を過ごした人もいるでしょう。当然ながら、楽しいことや嬉しいことだけではなく、理解していますが、「全ては自身の成長にとって必要であった」と考えることができれば、素敵な経験だったと思える日はすぐにでも訪れるでしょう。

いろいろな想いを胸に前へと進んでいく皆さんですが、自ら選択した道に、「自信」と「責任」を持って、しっかり前を見据えて歩んでくれることを期待しています。そして、“人として”成長した折には、沖縄高専の更なる発展に、様々な形で貢献してもらえることを切に願いつつ、この役目を終えたいと思います。

修了にあたって



機械システム工学コース

饒波 和磨

私は専攻科進学という道を進み、ここ沖縄高専で7年間を過ごしてきました。振り返ってみると、沖縄高専で過ごした7年間はとても充実しており、あっという間に過ぎ去って行きました。特に専攻科で過ごした2年間は、私が人として成長するなかで重要な2年間だったと思います。専攻科では、研究センターの学生生活であり、今までの授業を受ける受動的な学生生活から、自ら学び、計画を立ててそれを遂行していく能動的な学生生活にシフトしました。初めは、それに対応できず、苦勞する面が多かったですが、現在では完璧ではないですが、少しは改善し成長できたと感じます。また、専攻科では学外の研究発表が必須となっており、私も3回研究発表をすることができました。このような経験を通して研究者と交流することで、他の研究を知ることができ、視野を広げることが出来ました。

研究や進路を決定するなかで大変なこともありましたが、同級生と助け合いながら、今回無事修了することができました。同級生とは、同じ工学を志す同志として15歳のときに出会い7年間を同じ校舎で過ごすことでかけがえのない絆をもつ本当に信頼できる仲間が出来ました。

4月からは、社会人として新しい環境での生活が始まります。これまで通りの学生の気分では上手く行かないことが多々でくると思うので、心機一転、気持ちを切り替えて楽しみながら成長していけるよう努力していきます。

それでは最後になりましたが、武村先生をはじめお世話になった先生方、また在学中アドバイスをくださった同級生並びに後輩の皆様に感謝の意を表します。



情報工学コース

荻堂 修太

高専本科から高専専攻科までの7年間を沖縄高専で過ごしました。その中でも専攻科で過ごした2年間は周囲の環境やチャンスに恵まれた2年間でした。

専攻科に進学してからはサービスの開発に興味を持ち、それがきっかけとなり、ベンチャー企業でのインターン、他大学の学生が主催した開発イベントや勉強会への参加、プログラミング言語のユーザグループの集まりに参加したりなど、学外の環境に触れることができました。このような学外でのイベントでは、参加するたびに周りのレベルの高さに圧倒されるばかりでした。しかし、学生から社会人まで様々な人達の話を知ることができ、非常に良い刺激になりました。学内でも、研究や開発が行き詰った時にディスカッションや、作業に付き合ってくれた先輩や同級生達のおかげで、なんとかモチベーションを保つことができました。学内、学外共に環境やチャンスに恵まれたからこそ、専攻科で過ごした2年間で成長を実感することができたと思います。

4月から社会人としての生活が始まります。7年間慣れ親しんだ沖縄高専を離れ、新しい環境に踏み出すことに一抹の不安を感じます。しかし、沖縄高専で学び経験したことを忘れず、一人前の技術者を目指して精進していきます。

最後になりましたが、7年間共に過ごした仲間、たくさんのアドバイスをくださった先輩方、そして熱心に指導してくださった先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



電子通信システム工学コース

照屋 未来

ようやく高専での7年間が終わりを迎えようとしています。10月からの学位申請と中間発表、3つの学会を乗り越え、年明けの最終発表まで終わったところですが、まだまだやることは残っている専攻科2年生。この記事を書いている今も、私は学会に参加するためマレーシアにいます。発表を終え、ビーチサイドで夕日を見ながら…という夢は崩れ、リゾート地でもパソコン広げております。ちなみに本稿締切日は特別研究論文締切日でもあります。本科卒業時に続けて2度もこのような機会を頂けたこと、厚く御礼申し上げます。

思えば専攻科に入学した当初から、私たちは日々何かに追われ生活を送ってきました。学位申請の制度が変わり、不安だらけで振り回され…否、対応しながらも、日々の研究や課題をこなしてきました。思ったより多い講義数、選択という名の必修講義、融通が利かないカリキュラム、なぜか同時期に課される課題、進められない(進まない)研究、無駄に遅らされた就職活動。想像していた以上ギャップや理不尽、自らの不甲斐無さに襲われることもあり、この進路でよかったのかと悩んだこともありました。けれど、一つ一つ乗り越えていくことで、その全てが自信になり、力となったような気がします。

そばで見守ってくださった方々や苦楽を共に過ごした同期の存在も、私にとっては大きな支えとなりました。本科時からご指導くださり、学会やインターンなど挑戦する機会をたくさん与えてくださった指導教員、学業だけでなく生活面でも気遣ってくださった先生、愚痴り合い励まし合いながら日々協力してきた同期。迷惑や心配も多々お掛けしましたが、皆様のおかげでここまで来ることができました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

まだまだ伝えきれない思いはありますが、とりあえず今はしまっておいて…。その思いと高専での学びを胸に、これから高専の外の世界へと一歩一歩進んでいきたいと思っています。



生物資源工学コース

城間 博紹

沖縄高専に入学してからもうすぐ7年という月日が経とうとしています。人生の約1/3の時間を沖縄高専で過ごしてきたので、寂しい気持ちと新しい生活が始まる躍動感が入り混じった複雑な心境でこのメッセージを書いています(笑)。

思い返してみると、私の高専生活の転機は、生物資源工学科への転学科でした。今まで情報通信システム工学科の教室にいたもので、生物資源工学科の教室に初めて足を踏み入れたとき、クラスがざわつき、まるで体に異物が入ったみたいでしたが、次第に皆と仲良くなり、体育祭や高専祭、研修旅行、卒業旅行等を通して楽しい思い出を作ることができました。勉学の方では、講義のない時間や放課後に、1・2年生で受けるべき生物の専門科目を講義して頂いたおかげで、手先が器用ではない点を除けば特に支障なく高専生活を送りました。

専攻科に進学後は、本科までの高専生活とは違い、研究に追われる毎日が始まりました。特に、専攻科2年次には学位を取得する方法が変わり、それに伴い研究テーマを変更することになり、研究だけではなく、課題やレポート、大学院へ進学するための受験勉強に励む毎日でした。担当教員からの競い合う気持ちが足りないといったアドバイスから始めた朝活のおかげでこの辛い時期を乗り越えることができました。研究室の友人とともに7時に登校し、アクセル全開で勉学に取り組み、そのおかげで、無事大学院へ合格し、研究の最終発表を終え、卒業論文を提出することができました。

専攻科修了にあたり、私は多くの人に支えられ、この環境に感謝することを学び、ここでしか得ることのできない貴重な経験を経ることができたので生物資源工学科に転学科し、専攻科に進学してよかったと思います。

最後になりましたが、お世話になった先生方、友人達、両親に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

第10回高専祭



高専祭実行委員長
生物資源工学科4年
石川 真帆

今年度、高専祭実行委員長を務めさせて頂いた4年生物資源工学科の石川真帆です。沖縄高専では去る11月7, 8日の2日間で高専祭を開催しました。今年で11回目の高専祭では、「High祭! 沖縄高専祭!」をテーマに、今まで以上の盛り上がりを目指し、パンフレットやポスター、構内の装飾に力を入れ、学校の敷地内のスペースを最大限に活用したイベントの企画に力を入れました。

私は、昨年度行われた九州地区高専の交流会に参加し、他高専の高専祭では、実行委員主催のイベントが多く、学生だけでなく、お客さんも参加できるイベントや、観ているだけで楽しめるイベントなど、イベントのクオリティの高さに感銘を受けました。

それを参考に、沖縄高専でも今年度は実行委員主催のイベントを昨年の倍以上に増やしました。中でも、「ヘボコン」や「高専神社」、「OC-1 グランプリ」、「スイーツ早食い」は、観て楽しい、参加して楽しいイベントとして大いに盛り上がりました。

また、構内どこにいても高専祭が十分に楽しめるよ

う、高専祭実行委員の SNS アカウントを開設し、アリーナやピロティのプログラムや屋台の売り上げ情報をリアルタイムで周知することで集客率をあげることができました。

限られた予算の中、実行委員として目指すクオリティを出すことがとても大変でしたが、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの方々、先生方のご協力により高専祭を無事に作り上げることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

そして、平成27年度高専祭開催にあたり、最後まで私を支え協力してくださった、書記、副実行委員長、各局長、高専祭実行委員の皆さんに感謝しています。



学生の活躍

メディア情報工学科5年

足立 詩緒香

女子バスケットボール

平成27年7月に第52回九州沖縄地区高等専門学校体育大会バスケットボール競技が熊本県で行われました。1日目は大分高専と久留米高専と対戦し、多少苦しい場面もありましたが、順調に決勝リーグに進出しました。2日目準決勝では八代高専と対戦しました。後半から徐々に点差を付け、セカンドメンバーもコートに立ち、全員で勝ち進むことができました。決勝戦では、沖縄高専が初めて高専大会に出場した時からずっと決勝戦で対戦するライバル校、有明高専と対戦しました。前半からお互い一歩も揺らさず、常に緊迫した状態の試合展開となりました。最終クォーターまで点差は広がらず、結果は66-64で敗れ、九州5連覇という夢を果たすことができませんでした。現在の部員はほとんどが入学して常に九州を連覇し、“九州大会で負ける”という経験がありませんでした。そのため、最後の粘りは今まで負け続けてきた有明高専が強く、その強い気持ちで優勝を勝ち取ったのだらうなと感じました。しかし、この経験は今後の後輩達に大きな影響を与えられると思います。この敗因は何か、今までの練習内容は納得の行くものだったのが、これを機に見直すべきところが多々見つかると思います。それにより来年度の高専大会では更に成長した女子バスケットボール部が見られると思います。

私達バスケットボール部は、もちろん大会で良い成績を出すために本気で部活を行っています。しかし、ただバスケットをするのではなく「良きプレイヤーであるまに良き学生であれ」というコンセプトで部活動を行っています。挨拶・礼儀・マナーなど、部活動でしか学べないことが多く、私達は部活を通して学ばせてもらっています。指導教員の先生方、先輩方、保護者が支えてくれているからこそこうして私たちは成長しています。このような方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進して参りますので、今後ともバスケットボール部を宜しくお願いします。



IEEE (IEEEで「WIE」「UNDERGRADUATE」部門優秀賞)



情報通信システム工学科2年

知名 紗也加

いろんな話を聞く度、多方面から刺激を受けると同時に、男子が多い高専の中で、こんなに多くの女子が立ち上がり、奮闘していることに多くの感動と勇気をもらった。

私には今、一つの夢がある。それはコンテストで楽しさを見出した「企画・提案」に携わる職に就くということだ。そのために今まで得られたことを踏まえ、専門教科のみならず、その他様々な分野の勉強に取り組みたい。情報工学とその他の技術、時には女性らしさを含む様々な視点を上手く「掛け算」できるようにになりたいのだ。そうすることで、世の中の女性がもっと楽しく人生を歩めるように、そして工業に興味をもってもらえるようなものを作り上げたい。

私は、工業をイメージした時に「女性が活躍している」そんな印象がもてるような社会づくりに貢献していきたいと強く思うのだ。

「工業や工学」と聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろうか。様々なものが挙がるだろうが、「女性」のイメージを持つ方は少ないのではないが。だが、むしろ今の時代、女性こそ工学を学ぶべきだと私は思う。

きっかけはマイコンのデザインコンテストに出場したことだった。私たちは工業人に男性が多いことを逆手に取り、女子だけでチームを編成し、作品のターゲットを女子に絞ることにした。沖縄人として女性として気になる紫外線を測定し強度を示す機能や、ミラーや小物入れのあるコンバウトを作ることにした。機能だけでなく、外装にも女性らしさを詰め込んだ。これなら世の中の女性は必ず喜んでくれる、そう確信すると同時に工業人として、女性として、沢山の想いを詰め込んだ作品になった。メンバー全員の努力もありコンテストの予選は通過したが、本選での受賞は逃してしまった。それでも私が得たものはとても大きかった。

その後、私は女子高専生フォーラムに参加する機会を頂いた。そこでは、本当に同年代が疑うほど、多様な経験を重ね偉業を成し遂げた方々に出会った。いろ

IEEE (アイ・トリプル・イー: The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.) は、アメリカ合衆国に本部を持つ電気工学・電子工学技術の学会です。

知名さんは IEEE Tokyo Young Professional (YPs) Affinity Group、IEEE Japan Council Women in Engineering (WIE) Affinity Group、および IEEE Kansai YPs Affinity Group の団体によるキャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト (IEEE 第7回エッセイコンテスト) において、「WIE」と「UNDERGRADUATE」の両部門にて優秀賞を受賞しました。「WIE」は、年齢制限がなく、大学生～大学院生～研究者から受賞者を選出している中での受賞です。

受賞結果は IEEE の公式ホームページにも掲載されております: <http://www.ieee-jp.org/tokyogold/>

生物資源工学科3年

八幡 雅樹

サイエンスキャッスル

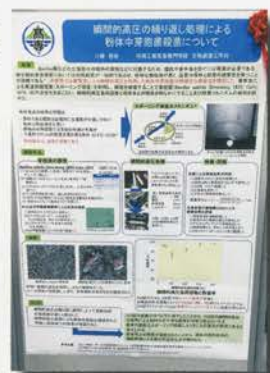
3年生物資源工学科の八幡雅樹です。私は、1,2年次に嶽本あゆみ先生の研究室で「瞬間的高圧の繰り返し処理による粉体中芽胞菌殺菌について」というテーマで創造研究に取り組みました。概要を説明すると、粉体食品中に存在する「芽胞菌」という耐久性の高い細胞構造を持つ微生物に対して、衝撃波による瞬間的高圧を繰り返し負荷することで、非加熱条件下で芽胞菌の不活性化を試みた研究です。

1年生の時に、研究室の先輩と知り合ったのをきっかけに、先輩の助手として基本操作を教えてもらいながら衝撃波による殺菌実験を行いました。後期からは、先生に自分のテーマをもらって実験し、2年生に進級すると、先輩の研究を引き継ぎ、一人で研究を進めるようになりました。まだ、実験方法が確立されておらず、手探り状態だったので、休憩なしで6時間実験を行った日もありました。何度やっても衝撃波で試料が破壊され、初期の頃は、ほとんど実験に失敗していました。また、私はこのとき陸上部だったので、研究と部活の両立にも大変苦労しました。実験器具のオートフレイプ(滅菌処理)中に部活に行き練習メニューをこなし、実験室に戻って実験をする。練習の甲斐あって高校総体では県大会で準優勝し、九州大会では8位の成績を収めることができたが、心身ともに疲れたので、もう二度とやりたくないと思います。3年生になって、改良を重ね実験結果を出して、その成果をレポートにまとめました。これが最も楽しく苦しかった作業でした。研究成果を学会で発表し、社会的な評価を得たときは、とても嬉しく思いました。しかし、学会等の参加にあたって公認欠席が認められないことや、旅費が一部しか補助されず計10万円以上が自費である等、学校側のサポートの不十分さを感じたので、これは今後の課題であるように思います。最後に研究を進めるにあたって御協力頂いた全ての方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成27年8月2日(日)～4日(火)第5回高校生バイオサミット in 鶴岡で「山形県教育委員会教育長賞」を受賞!

第55回沖縄県生徒科学賞作品展第39回沖縄県高等学校総合文化祭自然科学部門で「読売科学作品賞」

平成27年12月6日(日)サイエンスキャッスル2015東北大会でサイエンスキャッスル審査員特別賞及び「研究奨励賞」を受賞



英語スピーチ

私は、平成 27 年 12 月 12 日に名護市中央図書館で開催された「第 19 回やんばる圏高校生英語スピーチコンテスト」に参加しました。私がスピーチコンテストに出ようと思ったきっかけは、私自身前に進むためのひとつの手段だったのだと思います。スピーチコンテストでは「The meal story: My ambition for the research on meals」という演題でスピーチをしました。父ががんになったことで、がんに関する正しい知識と食事の大切さ、私たち家族の取り組みを通して芽生えた食事に対しての考えをテーマにしました。

沖縄高専に入学したのもがんに関する研究をしたかったからです。私はどういうふうの研究をし、それを形にしていけばいいのかわかっていませんでした。先生や学友や誰かに背中を押してもらうのではなく、私自身が動き出さなければいけないと思っていました。どうしてもその一歩が踏み出せずにいました。

その時に、英語スピーチコンテストの案内があり、自分の経験したこと、これからやっていきたいことを文章にして、多くの人に聞いてもらうことは、もしがしたら動き出すための第一歩になるかもしれないと思い、参加を決意しました。

私はスピーチコンテストに参加するのは初めてで、原稿を仕上げて練習をし、本番にたどり着くまでに、英語担当の先生方にたくさん協力してもらいました。そのおかげで満足のいくスピーチをすることができ、結果金賞という素晴らしい賞をいただくことができたのではないかと思います。

私は、父のがんを通して食事の大切さを学びました。そしてそれをどうにか研究できないかと考え、少しずつ勉強をし、研究の準備を始めています。この研究を私の中でどういう形にしていけるのが見えないところがたくさんあります。しかし、スピーチをしたことで一歩が踏み出せて、おほほけですがどう研究をこれからしていきたいのが見えてきたような気がします。これから自分の研究を形にしていけるように努力していきたいです。



機械システム工学科 5 年

桐原 遥子

弓道

入部当初、私には憧れの先輩がいました。先輩は部内で一番射が綺麗で上手でした。大会の会場が静まり返った中、先輩の矢が的に当たり、パンツとなる音がカッコよく、私も先輩のようになりたいと練習に打ち込んだのが懐かしいです。しかし、私はあまり上手にはなれず、大会での成績は予選落ちがほとんどです。あまり向いていなかったんだと落ち込んだりもしました。今では笑い話です。

2015 年の九州沖縄地区高専弓道大会において女子団体戦では 3 位、女子個人戦では 5 位、全国大会への派遣をいただきました。女子団体戦で 3 位が決まったとき、喜んではいたのですが実感がわきませんでした。あとで先生から、「よくやった!」と褒めていただいたとき、嬉しさがじわじわと湧き、今までの練習や経験は、その全てが今回の結果につながったのだと思います。残念ながら全国大会では女子団体戦 5 位という結果に終わってしまいましたが、最後の夏に最高の思い出ができました。社会人になっても続けていきたいです。

最後に後輩たちへ、2016 年の九州沖縄地区大会は沖縄で開催されます。運営が大変とは思いますが、自分にできることを精一杯頑張ってください。沖縄を離れてしまう私は応援に行けませんが、遠くから見守ります。次こそは優勝! 期待しています。



機械システム工学科 1 年

知念 優奈

水泳

去る 2015 年 7 月、福岡にて行われた九州・沖縄地区高専大会水泳競技に、私を含め、水泳部から 9 名の選手が参加しました。その結果、個人種目において、男子 100 m 自由形 7 位（新崎高弘：2 年生物）、400、800 m 自由形 4 位（島袋歩：3 年情報）、女子 100 m 平泳ぎ 4・6 位（金城優生：5 年情報・中野貴稀：3 年メディア）、50 m バタフライ・100 m 自由形 4 位（知念優奈：1 年機械）、50 m 背泳ぎ 2 位（宗前紫苑：1 年機械）に入賞し、リレー種目においても男子 400 m リレー 8 位（島袋・上村：3 年機械・宮里：2 年情報・新崎）、女子 200 m リレー 2 位（宗前・中野・知念・金城）に入賞しました。その後、上位入賞した女子 4 人は、全国高専大会にも出場いたしました。

私は、今年度入学したばかりの一年生です。学校生活にも不慣れの中、好きな水泳を続けようと思い、水泳部に入部しました。部活動に入るのは初めてでしたが、先輩方が優しく、面白い方々で、すぐに楽しく活動できるようになりました。屋外プールなので天候に左右され、活動時間は短くなりますが、部員一人一人が、目的・目標を持って泳ぐことで、互いに高めあい練習しています。おかげで全国高専大会も連続出場記録を 5 年に更新することができました。

これは部員はじめ、先生や保護者の皆さんの応援と協力があってこそこの記録です。応援と協力に感謝申し上げます。

今年度は高専大会だけでなく、県大会出場、自己ベスト更新など、水泳部全体でもそれぞれの活躍や向上が見られた良い 1 年でした。来年度は九州地区の高専大会が沖縄開催ということもあるので、今年度よりたくさんの部員が活躍できるよう、頑張っていきたいと思っています。私個人の目標としては、来年度は 0.1 秒でも早く泳いで良い結果を残し、また他の部員へのアドバイスや新入生を教えたりしたいと考えています。そして、一回り成長した自分になれるように頑張ります。

引き続き、私達水泳部への応援をよろしくお願い致します。



ICT 委員会

ICT 委員会委員長の潮平諒也です。ICT 委員会は、大会やコンテストに向けて、パソコンやスマートフォンなどで動くアプリケーションを作成するのが主な活動です。

今年度に ICT 委員会が参加した大会やコンテストなどと、その成績を紹介します。

・第 26 回全国高専プログラミングコンテスト

この大会は通称プロコンと呼ばれる、全国の高専生がプログラミングの腕を競う大会です。プロコンには、競技部門、自由部門、課題部門があり ICT 委員会からは自由部門 2 チームと競技部門が、長野で行われた本戦に出場しました。



・パソコン甲子園 2015

パソコン甲子園は、全国の高校生以下の生徒が対象の大会です。この大会にはプログラミング部門とモバイル部門があります。ICT 委員会からはプログラミング部門に 2 年生のペアが、モバイル部門には 2 チームが本戦に参加し、プログラミング部門は審査委員特別賞、モバイル部門はベストアイデア賞(2 位相当)を受賞しました。



・第 15 回日本情報オリンピック

日本情報オリンピックは、日本全国の高校生以下の生徒がプログラミングを用いて数学的な問題解決力を競う大会です。インターネット

を通じて開催された予選を突破した ICT 委員会の 2 年生が筑波で開催された本戦に出場しました。

・うちなー ICT ビジネスプラン発表会

沖縄県内において ICT を利用した起業家を目指す大学生などを対象に開催された大会です。ICT 委員会からは 4 チームが参加し、NICT 賞、沖縄情報通信懇談会会長賞、ICT ビジネス研究会キャンパス賞、IIA 会長賞を受賞しました。



・KAKEHASHI project

KAKEHASHI project は外務省が日米交流のために年間 2000 人の高校生、大学生を 2 週間程度アメリカに派遣する事業です。派遣された学生はアメリカの 3 都市をまわり、現地での英語でのプレゼンテーションを通して、交流を図ることを目的としています。ICT 委員会は前述した高専プロコンでの取り組みを紹介しました。



高専への入学を考えているみなさん。私たちと一緒に色々な大会やコンテストに参加しませんか？普通の高専生活では得られない、仲間と開発することの楽しさやプログラミングの技術が身につきます。是非チャレンジしてください。

「ICTビジネスモデル発見&発表会」において本校学生チームが総務大臣賞を受賞!!

平成 28 年 2 月 16、17 日の 2 日間、東京のイノホールで開催された第 2 回 ICT ビジネスモデル発見&発表会(主催: ICT ビジネス研究会、テレコムサービス協会)において、本校の 1 年生 3 名のチーム「ピュアの極み乙女、」が修学旅行の課題を解決するサービス「しゅうがくりょーこん」を発表し、総務大臣賞(キャンパス大賞)を受賞しました。

ICT ビジネスモデル発見&発表会は ICT 技術を用いた産業・技術・サービスのビジネスモデルを競うコンテストです。

全国 11 地区で開催された予選を勝ち抜いた 11 チームが競い大学院生、大学生チームを押さえ本校 1 年生のチームが見事優勝しました。

表彰式では高市総務大臣から本校の学生に表彰状と副賞が直接手渡されました。

今回受賞した 1 年生の今後の活躍が期待されます。

(受賞学生)

金城 樹里(メディア情報工学科 1 年)

呉屋 愛恵(メディア情報工学科 1 年)

外間 ルイ(情報通信システム工学科 1 年)



コンテスト会場にて
高市総務大臣と



校長報告会にて
指導教員の正木先生と

第9回「びぶりお文学賞」(琉球大学主催)詩部門で4名佳作

平成 28 年 1 月 26 日(火)、琉球大学 50 周年記念館で「第 9 回びぶりお文学賞」の表彰式が行われました。翁長志保子先生のご指導で、第 4 学年「文学概論 I」の授業で創作した詩を応募し、見事 4 名の学生が「佳作」に入賞しました。大城肇学長のお話や審査員講評などがありました。

「詩部門」の「佳作」

「眠る。」

川根 慎司 (機械システム工学科 4 年)

「破れた家」

霞 千明 (生物資源工学科 4 年)

「水風船」

古謝 秀人 (メディア情報工学科 4 年)

「そこにある」

喜瀬 真太郎 (メディア情報工学科 4 年)



日本工学教育協会 第19回 (2014 年度) 工学教育賞受賞

「地域科学技術教育への貢献とそこで活躍する学生の人間力育成の取組み」と題し、平成 23 年 4 月から 4 年間にわたり行ってきた ALL やんばる科学と教育のまちづくり の取組みに対し、日本工学教育協会より第 19 回 (2014 年度) 工学教育賞を受賞致しました。

本事業は、離島を含めた地域のこども達からお年寄りまで幅広い年代の方々を対象とし、科学の学びのシステム構築を目的に活動してきました。本活動では、名護市に開設運営した常設施設サイエンスランドによる地域貢献、および主催者側の一員として企画立案にも活躍した高専生の授業以外での取組みにおける人間形成のシステムの構築に対し高い評価を受けました。本事業で行ったイベントは、述べ 142 回、サイエンスランドは、述べ約 1 万名近い利用者がありました。なお、現在本事業は、「ALL やんばるまなびのまちプロジェクト」として、主に「やんばる」に所在する教育・研究機関等が参画連携し、沖縄県民の方々への科学イベント開催などを通じ、地域貢献・人材育成を目的にさまざまな活動を継続しています。本校はこのプロジェクトに参画し、地域のこどもやおとなを対象とした学びの機会を提供する更なる活動を続けています。本事業にご協力・ご参加いただいた名護市教育委員会をはじめ地域の多くの方々へ心より感謝申し上げます。

受賞者は、生物資源工学科平山けい、田中博、メディア情報工学科太田佐栄子、玉木龍洋の各先生です。



サイエンスランドでの実験や学びの様子

(左：月 1 回夜に行った大人のための科学の学びの場・大人のサイエンスランド、右：離島からの小・中学生やその保護者を招いて行った宿泊型科学教室)

地域連携推進センター

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携や交流を推進し、共同研究等による技術開発、及び人材の育成等に取り組んでいます。

主な活動内容として、毎月定例の技術相談会や企業技術者等との懇談会の開催、知的財産セミナー、沖縄高専フォーラム等の実施、共同・受託研究、受託試験、技術相談も随時受け入れています。さらに地域の各種イベントへ出展し、本校の教育研究内容を発信しています。

また、地域交流推進の一環として、科学やものづくりの楽しさを実際に体験してもらう活動も行っています。本年度は、名護市大宮中学校や宜野湾市の小学生を対象とした体験授業、宮古・八重山地域での実験教室他、出前授業や公開講座を開催しました。



企業技術者等との懇談会



中学生対象体験授業



沖縄の産業まつり (子ども科学教室)



宮古・八重山地域での実験教室

学生会より



平成 27 年度学生会長
生物資源工学科4年
具志堅 興太

平成 27 年度学生会長を務めております生物資源工学科の具志堅興太です。今年度の学生会の活動として、4月の体育祭に始まり、5月には島巡りツアー・地域清掃、6月にはスポーツフェスタ・交通安全祈願の日、7月には七夕イベント・学生プロデュース企画枠イベント、10月にはすごろく大会、11月には高専祭、12月にはツーデーマーチ・スポーツフェスタ・学生プロデュース企画枠イベント・地域清掃と1年間ほぼ毎月様々なイベントを企画運営することができました。イベントの企画運営を行う際、色々な問題にも学生会が一丸となり協力したことで無事解決をしていき、イベントを盛り上げることができました。

また、まもなく1年の終わりが近づいてきたと共に新たな道を歩み始める卒業生のための卒業企画運営の準備と同時に、新入生の受け入れについても充実した学生生活を送れるよう準備を進めてきており、新たな仲間との出逢いに胸をふくらませております。本校は、日頃の授業で色々なことを学び・成長することができることと沢山のクラブ活動を通して色々な人と繋がることができることが魅力の一つです。

最後に、今年度得られた経験や他高専との交流会を通して得られた学びや繋がりを糧に、今後益々学生生活を発展させる一助となれるよう、学生会一同最後まで努力していく所存です。

学生会が今年度もこうして様々なイベントを企画運営してこられたのも、後援会の皆様、先生方をはじめ学生、執行委員会のメンバーの協力があって成し得たことです。

この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で本科・専攻科を修了される皆様の御健勝と御発展を祈念して結びの言葉とさせていただきます。



寮生会より



平成 27 年度女子寮長
生物資源工学科4年
奥田 愛未

こんにちは。平成 27 年度女子寮長を務めております、生物資源工学科4年の奥田愛未です。

今年度、執行部では夏期休業期間には他高専の寮視察を行いました。他高専の寮を参考に、今後の寮の運営に活かしていく所存です。指導寮生会では、新入生の指導をはじめ、寮内の風紀の維持に努めました。整美委員会では、月1回行われる大掃除の計画・運営を行いました。保安委員会では、避難訓練を前期・後期各1回ずつ行いました。後期の訓練は夜間を想定して実施し、より寮生の安全を守るための活動に努めました。保健衛生委員会では毎月の寮食アンケートを実施し、寮生が楽しく美味しくご飯が食べられるよう努めました。企画広報委員会では、1月に行われた寮祭の企画・運営を行いました。寮祭にはたくさんの寮生が参加してくれました。

今年度も無事に寮を運営することができたのは各委員会の委員長、寮生、寮務主事、寮事務室の方々、先生方、そして保護者の方々の協力を頂いたからだと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、来年度、再来年度と沖縄高専学生寮をよりよくしていけるよう、寮生会一同、今まで以上に協力していきます。

今後とも学生寮をよろしくお願い致します。

後援会会長挨拶



沖縄工業高等専門学校後援会 会長
大濱 安典

沖縄高専本科を卒業、ならびに専攻科を修了する学生の皆様、おめでとうございます。また、保護者の皆様、学校関係者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

毎年、好評を得ている卒業生・修了生の胸を飾る手作りのコサージュを、今年も保護者の手作りでプレゼントしようと後援会活動の一つとして企画し、去った2月28日に制作しました。

当日は、卒業生・修了生の保護者を中心に多くの保護者の参加があり、和やかな雰囲気の中、一つ一つ愛情を込めて作ったコサージュは綺麗に仕上がっており、晴れの門出に彩りを添えてくれることでしょう。制作にあたり、関係者並びに参加していただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。

さて、11月に県立武道館で行われた第38回沖縄県の産業まつりに出向いたところ、今回も沖縄高専のブースがあり、たいへん多くの来場者で賑わっていました。とりわけ沖縄高専の卒業生が立ち上げた「スケルトニクス株式会社」により製作されたロボットには、子供たちが周りを囲み、実物に関心を持って見入っており、操縦体験には長蛇の列が出来ていました。彼らの「ものづくり」の素晴らしさは、沖縄県の産業界や技術者に刺激を与えたことでしょう。

最後に、本年度も後援会は学生の活躍に期待し、課外活動や教育・研究事業を支援してきました。その期待に応えるかのように学生たちは、紙面では紹介しきれないほどの素晴らしい成果や結果を残してくれました。これもひとえに会員の皆様のご理解とご協力があったからこそだと考えます。改めて、本会を代表して深く感謝いたします。

今後とも引き続き、お子様が通う沖縄高専や学生の活動や活躍に関心を持っていただいて、一緒に後援会事業を盛り上げていただけますようお願い申し上げます。

■保健室より



出会いや別れの多い季節。卒業生は新社会人としての出発や新たな学校生活もあり、在學生は新学年へ向け気持ちを切り替え、学生生活を楽しむためにも日頃の体調管理に気をつけましょう。

ちょっとした不注意がケガのもとになります。そして、頭痛を訴える学生が少なくありません。

頭痛は睡眠不足、目の疲れ、肩や首の凝り、ストレス、かぜやインフルエンザの病気など様々な原因が考えられます。睡眠をしっかりとり、栄養をとる、休息も大事です。

*頭痛は下記のように大別されます。

- 一次性的頭痛（原因となる他の病気がなく、繰り返し起こる頭痛（慢性頭痛））
片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛など
- 二次性的頭痛（脳や頭部など他の病気が原因で起こる頭痛）
くも膜下出血、脳出血など

命を脅かす頭痛もあります。いつもと違う頭痛や激痛がする場合はもちろんですが、慢性的な頭痛でも病院を受診し相談しましょう。

《お知らせ》4月に在學生は学生定期健康診断が行われます。忘れずに受けましょう。



平成28年度学生募集結果一覧

推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	12	2	12	2
情報通信システム工学科	17	3	17	2
メディア情報工学科	9	9	5	8
生物資源工学科	2	9	2	9
男女別計	40	23	36	21
合計	63		57	

専門実習による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	21	6	6	1
合計	27		7	

(1名辞退)

学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	27	1	25	1
情報通信システム工学科	41	8	21	3
メディア情報工学科	16	1	19	4
生物資源工学科	24	11	21	9
男女別計	108	21	86	17
合計	129		103	

帰国子女特別選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
生物資源工学科	0	1	0	1

■ 平成 28 年度 (前期) 行事予定表 ■

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1	金	在学学生開寮	1	日		1	水	予備日	1	月	
2	土	入学式 新入生入寮	2	月		2	木	中間試験(複数同時実施科目)	2	火	金曜日の授業
3	日	オリエンテーション(視聴覚ホール) 入寮式・開寮式・対面式 PC 設定会	3	火	憲法記念日	3	金		3	水	前期期末試験(4日間)
4	月	健康診断、課題確認試験(数学・本科1年) 教科書販売、新入生のノートPC設定会 航空技術者プログラム3年生対象説明会	4	水	みどりの日	4	土		4	木	
5	火	健康診断、教科書販売 新入生のノートPC設定会 航空技術者プログラム履修者対象説明会(4年生) 図書館利用講習会(2年生予定)	5	木	こどもの日	5	日		5	金	
6	水	全学年授業開始 交通安全講習会(2年生以下X予定)	6	金		6	月	中間試験実施期間	6	土	
7	木		7	土	地域清掃(学生会主催)	7	火		7	日	
8	金		8	日		8	水		8	月	
9	土		9	月		9	木		9	火	試験返却日
10	日	開校記念日	10	火		10	金		10	水	
11	月		11	水	第一回定期学生会議会(仮) よろず相談(仮称)(1年合同)(第1回)	11	土	専攻科学力選抜 沖縄高専交通安全祈願の日 交通安全勉強会(20日まで)(学生会主催)	11	木	山の日
12	火	部活動紹介(学生会主催)	12	木		12	日		12	金	予備日
13	水	交通安全講習会(3年生以上・専攻科含む) カウンセラー講話(1年生)(仮)	13	金		13	月	前学期中間試験 再試験実施期間	13	土	前期末全校集会 閉寮式
14	木		14	土	専攻科推薦選抜	14	火		14	日	閉寮
15	金		15	日		15	水	ビジネスマナー講習会(4年合同) HypeQU(1～3年)	15	月	予備日
16	土		16	月		16	木		16	火	予備日
17	日		17	火		17	金		17	水	臨時休業日 全国高専体育大会 ～9月4日まで
18	月		18	水	こころと体の健康調査(仮)	18	土		18	木	夏期休業
19	火		19	木		19	日		19	金	
20	水	カウンセラー講話(2年生)(仮)	20	金		20	月		20	土	
21	木		21	土		21	火		21	日	
22	金		22	日	県高校総体(水泳)※先行開催	22	水	メイクアップセミナー (4年)	22	月	
23	土		23	月		23	木	慰霊の日	23	火	
24	日		24	火		24	金		24	水	
25	月		25	水	カウンセラー講話(2年生)(仮)	25	土		25	木	
26	火	産学連携協力会総会	26	木		26	日		26	金	
27	水	性に関する講演会(1年生)(仮)	27	金	県高校総体(総合開会式) ～6月1日まで	27	月	木曜日の授業	27	土	
28	木		28	土		28	火		28	日	
29	金	昭和の日 体育祭(登校日)	29	日		29	水	キャリア教育センター長講話 (2年合同)	29	月	
30	土		30	月		30	木		30	火	
			31	火					31	水	
備考			備考		就職向けキャリアアップセミナー (5年・専攻科2年合同)	備考		校内美化清掃(学生会主催) 地域清掃(学生会主催)	備考		校内美化清掃(学生会主催) 仮:サマースクール

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事